

# コルチェスター便り vol.2 (Jun 2019)

法学部・林 晃大(行政法)

現在私はイギリスのコルチェスターにあるエセックス大学 (University of Essex) の法学部及び人権センター (School of Law & Human Rights Centre) において、2018年8月28日～2019年8月27日の予定で在外研究中です。この「コルチェスター便り」では、近畿大学法学部の皆様に近況をお伝えします。

## ◎イギリスでの生活について

イギリスでの生活も9ヶ月が経過し、私の在外研究も残り3ヶ月弱となりました。エセックス大学も4月から長い試験期間に入っています。最近のコルチェスターは日の出が4時半、日の入りが21時過ぎと日照時間がとても長く、最高気温も20℃程度で過ごしやすい日が続いています。

今でこそこちらの生活にも慣れましたが、渡英当初は日常生活を送るなかで日本との違いに驚かされることもたくさんありました。例えば、ゴミ収集の回数が日本と比べて極端に少ないことに困られました。コルチェスターでは、生ゴミの収集は週に1回のみ、プラスチック・紙・缶・瓶は2週間に1回しか収集に来ないため、日本と同じような生活をしているとすぐに家がゴミで溢れてしまいます。あえてゴミの収集頻度を減らすことで半ば強制的に環境に配慮した生活を送るよう誘導されているのかもしれませんが、毎日のようにゴミを収集してくれる日本の行政サービスの充実を感じることができました。

また、イギリスではタバコやガムのポイ捨て、犬の糞などで歩道が汚れていることも多く、もちろん道路清掃が頻繁に行われることなどないため、コルチェスターでも社会問題として認識されています。2019年に入り、コルチェスターは£10000 (約140万円) かけてタウンセンターを中心にガム専用のゴミ箱を設置するなど対策に乗り出しています。犬の



(左) ガム専用ゴミ箱



(右) 犬の糞専用ゴミ箱

糞専用のゴミ箱が既に街中に設置され一定程度の効果を上げているようなので、こちらの解決にも期待が寄せられているようです。

こちらでの生活で特筆すべき点に生活必需品の価格の安さがあります。イギリスは物価が高いことで有名で、日本の消費税に当たる付加価値税 (VAT : Value-added tax) の標準

税率は 20%です。そのため、レストランなどで外食をすると日本とは比べ物にならないくらいの高額となります。しかしながら、こちらのスーパーで買い物をしていると野菜やパンなどの値段が非常に安いことに驚かされます。これは生活必需品には 20%の標準税率ではなく、いわゆるゼロ税率 (zero rate) が適用されるからです。野菜、果物、パンなどの食料品はもちろん、本や新聞といった出版物、子供服にもゼロ税率が適用されるため、生活必需品はかなりの低価格で手に入れることができます。アフターヌーンティーという文化が根付いているからかケーキやビスケットは生活必需品としてゼロ税率が適用されるのに対して、チョコレートは嗜好品として標準税率が適用されるのも面白い点です (イギリス政府の HP を調べてみると、チョコチップが入ったビスケットにはゼロ税率が適用されるのに対して、チョコレートでコーティングされたビスケットには標準税率が適用されるようです)。日本でも消費税増税に際して軽減税率の議論がありますが、その国の文化に合わせた軽減税率の適用というのも興味深い観点だと思います。

前回のコルチェスター便りでもお伝えしましたが、イギリスには広大な公園が数多く存在します。首都であるロンドンと東京を比較した場合、人口 1 人あたりの公園面積はロンドンが東京の約 10 倍というデータもあるようです。もちろん私の住むコルチェスターにも数多くの公園があります。その中でも特に私が気に入っているハイウッズ・カントリー・パークという森林公園は、300 エーカー (甲子園球場約 30 個分!) という敷地にウォーキングコース、アスレチック、ピクニックエリアなどが整備され市民の憩いの場になっています。整備されているとは言うものの、道が舗装されてい



ハイウッズ・カントリー・パーク専用アプリ

るわけ  
ハイウッズ・カントリー・パーク  
ではなく、森林はできる限り自然のまま残されており、動物や鳥、草花を見るのも一つの楽しみになっています。自治体の取り組みとして公園の様々な場所に QR コードが掲示されており、無料アプリでそれを読み込むと、そこに生息する動植物の情報を見ることができます。自然を楽しむというイギリスの人たちの気質と、自然との共生をしっかりと意識している自治体の素晴らしい取り組みの結果、快適な生活環境が保たれています。

## ◎おわりに

2019年3月29日に予定されていた Brexit は延期され、6月7日にはとうとうメイ首相が辞任するという事態となりました。メイ首相の後任が誰になるのか、無事に Brexit は果たされるのか。在外研究期間の残り期間が少なくなっている今、私がこの地で見届けることは難しくなりましたが、イギリスがこの社会変革をどのように成し遂げるのか帰国後も注視していきたいと考えています。

最後に、前回のコルチェスター便りからの繰り返しにはなりますが、在外研究の機会を与えてくださった近畿大学の関係者の皆様、快く送り出してくださった法学部教職員の皆様、そして林晃大ゼミの学生諸君にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。